

明治二十九年一月、中央線建設予算等が可決され、八王子～名古屋間全線開通を目指し、八王子と名古屋の両方から中央線の工事が着工された。明治三十四年八月に八王子～上野原間に開通、鳥沢～猿橋間では桂浜野屋を設立、後鉄道省、



天野浦作夫婦

天野浦作は、明治二年旧暦岡村浅利上平二七〇戸に父天野治三郎の三男として生れた。浅利小学校を卒業して後、しばらくは家業を手伝っていたが青年期に達すると、積極的に地元だけでなく、遠く静岡、浜松方面まで手を延ばし、地元の絹織物等を売つて歩いた。

こうした関係から浜松に向井島吉の三女「つる」と知り合い結婚し、数年浜松に住んでいた。

こうして明治三十五年十月一日大月までが開通した。当時の大月は現在の都留高校の辺から駒橋の三嶋神社あたりまで数軒の民家があつたのみで、あたりは一面の野原であり、さみしいところであったが、駅が開通することによって急速に発展してきた。

中央線の工事が始まるとき

馬車鉄道が大月から西桂ま

で開通するなどして駅前から甲州街道沿いに町は発展

していった。

旅館等を利用するようにな

り、明治三十六年一月富士

馬車鉄道が大月から西桂ま

で